

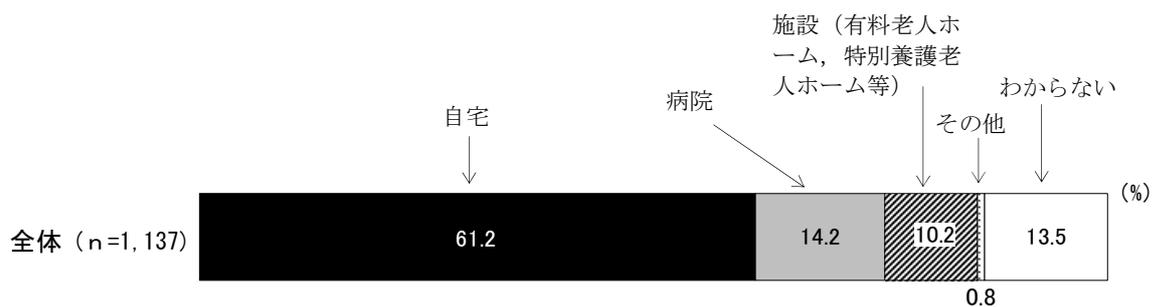
## Ⅸ 在宅医療

### 1. 終の棲家について

—「自宅」が6割を超えている—

問20 急速な高齢化の進展などから、住み慣れた環境で医療を受けられるよう在宅医療（※）のサービスの充実に取り組んでいます。あなたは、将来、どこで最期を迎えたいと思いますか。次の中から一番近いものを1つだけ選んでください。

※ 在宅医療とは、自宅での療養を希望する患者さんが、医師の往診や治療、訪問看護などの医療サービスを自宅で受けながら療養生活を送ることです。



終の棲家については、「自宅」（61.2%）が6割を超えて最も高くなっている。次いで「病院」（14.2%）が1割台半ば、「施設（有料老人ホーム、特別養護老人ホーム等）」（10.2%）が約1割となっている。

—「自宅」は男性の30代、60代、70歳以上で約7割—

地域別でみると、「自宅」は、鹿行（67.3%）で約7割と最も高く、県南（63.7%）と県西（65.5%）で6割台半ばとなっている。「病院」は、県央（21.0%）で2割を超えている。

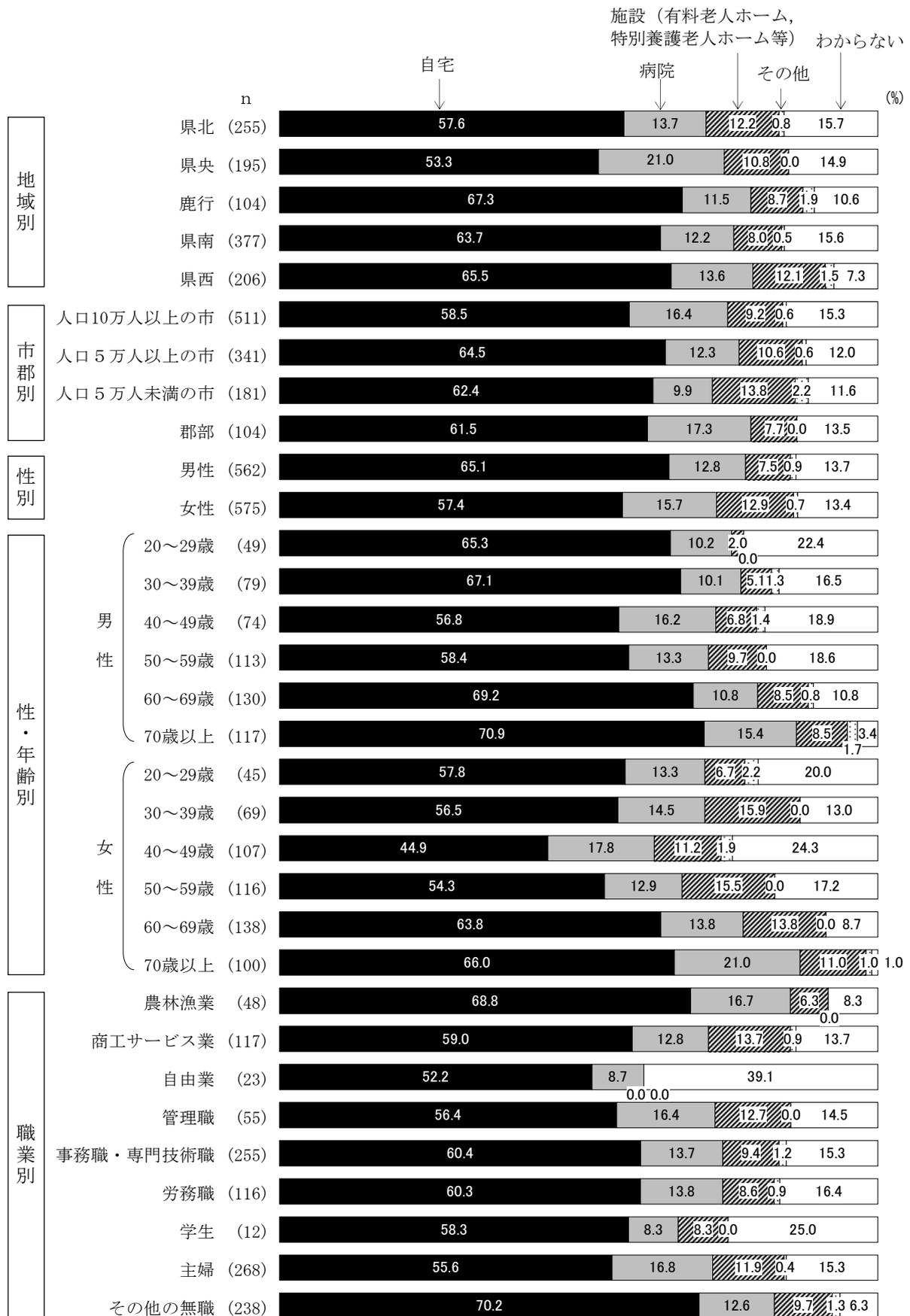
市郡別でみると、「自宅」は、人口10万人以上の市（58.5%）以外のすべての層で6割台となっている。

性別でみると、「自宅」は、男性（65.1%）が女性（57.4%）よりも約8ポイント高くなっている。一方、「施設（有料老人ホーム、特別養護老人ホーム等）」は、女性（12.9%）が男性（7.5%）よりも約5ポイント、「病院」は女性（15.7%）が男性（12.8%）よりも約3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「自宅」は、男性では30代（67.1%）、60代（69.2%）、70歳以上（70.9%）で約7割と高く、20代（65.3%）で6割台半ばとなっている。女性では60代（63.8%）、70歳以上（66.0%）で6割台半ばと高くなっている。また、「病院」は、女性の70歳以上（21.0%）で2割を超えている。

職業別でみると、「自宅」は、その他の無職（70.2%）で約7割と最も高くなっている。

図IX 20-1 終の棲家について（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）

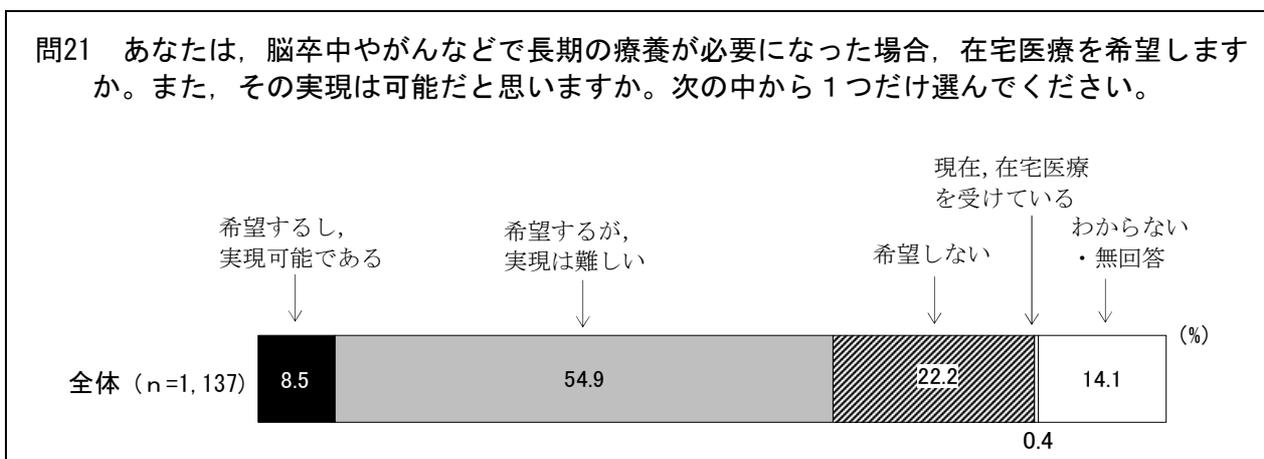


(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

## 2. 在宅医療

### (1) 在宅医療の希望と実現の可能性

#### —「希望するが、実現は難しい」が5割台半ば—



在宅医療の希望と実現の可能性としては、「希望するが、実現は難しい」(54.9%)が5割台半ばと最も高く、「希望するし、実現可能である」(8.5%)は約1割となっている。一方、「希望しない」(22.2%)が2割を超えている。

#### —「希望するが、実現は難しい」は女性の60代で約7割—

地域別でみると、「希望するが、実現は難しい」は、すべての地域で5割台となっている。「希望するし、実現可能である」は鹿行(14.4%)で1割台半ばとなっており、「希望しない」は鹿行以外のすべての地域で2割台となっている。

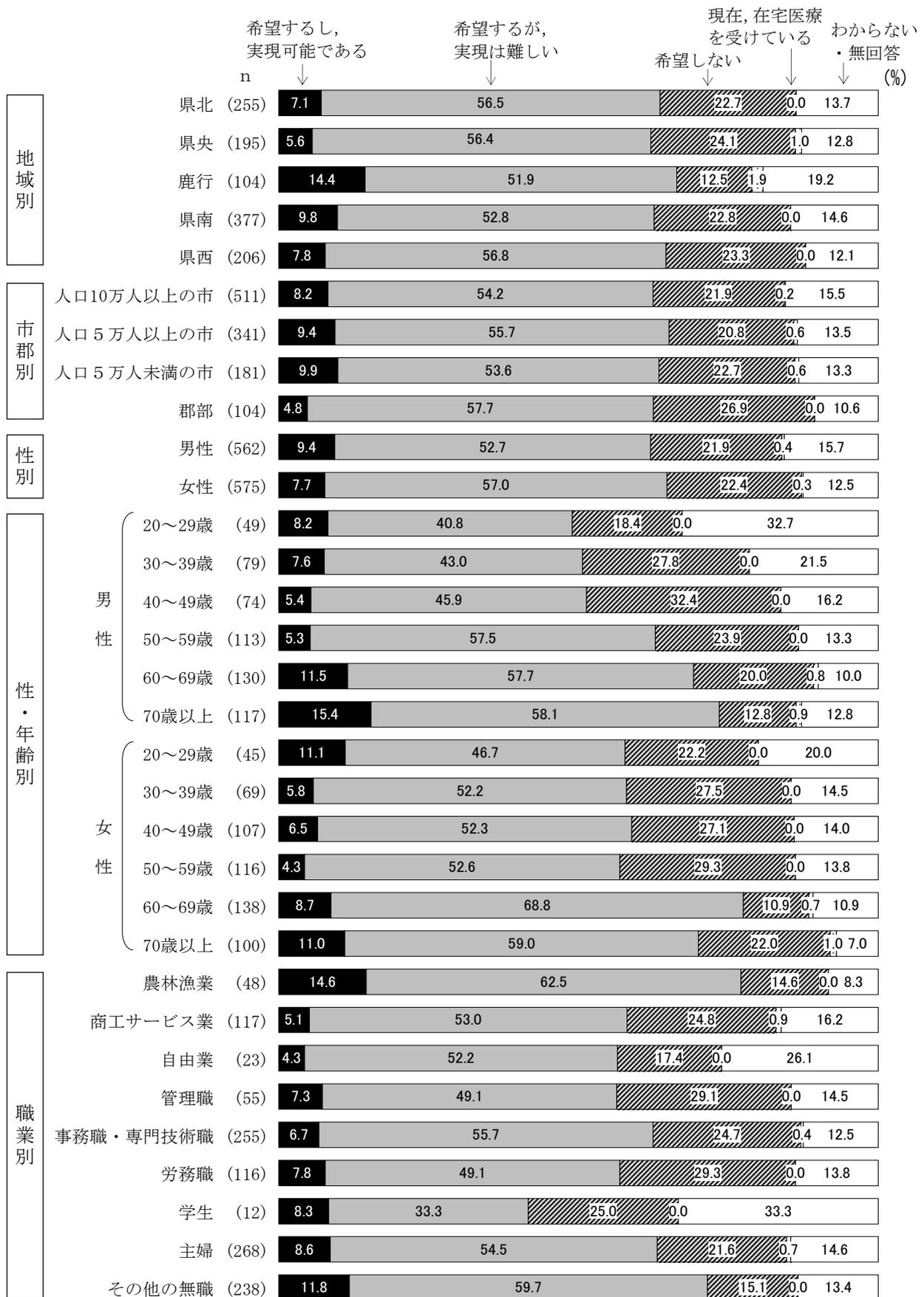
市郡別でみると、「希望するが、実現は難しい」は、すべての層で5割台となっている。「希望するし、実現可能である」は郡部(4.8%)以外のすべての層で約1割となっており、「希望しない」は郡部(26.9%)で2割台半ばと最も高くなっている。

性別でみると、「希望するが、実現は難しい」は、女性(57.0%)が男性(52.7%)よりも約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「希望するが、実現は難しい」は、男性では年齢が上がるほど高くなり、50代(57.5%)、60代(57.7%)、70歳以上(58.1%)で約6割となっている。女性では60代(68.8%)で約7割と最も高くなっている。「希望するし、実現可能である」は男性の70歳以上(15.4%)で1割台半ばを超え、「希望しない」は男性の40代(32.4%)で3割を超えている。

職業別でみると、「希望するが、実現は難しい」は、農林漁業(62.5%)で6割を超えて最も高く、その他の無職(59.7%)で約6割となっている。「希望しない」は、管理職(29.1%)と労務職(29.3%)で約3割と高くなっている。

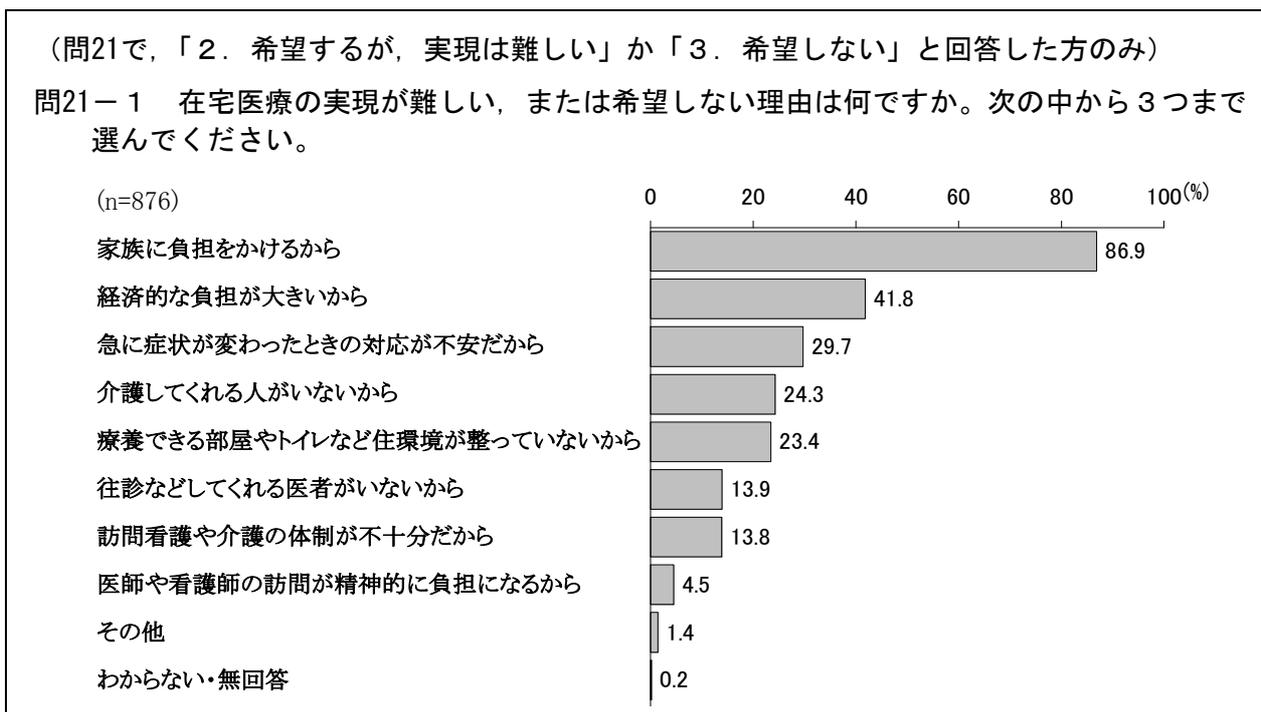
図区 21-1 在宅医療の希望と実現の可能性（地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別）



(注) 自由業及び学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 在宅医療が難しい理由や希望しない理由

—「家族に負担をかけるから」が8割台半ば—



在宅医療の希望と実現の可能性で「希望するが、実現は難しい」か「希望しない」と回答した方に、実現が難しい理由や希望しない理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」(86.9%)が8割台半ばで最も高くなっている。次いで「経済的な負担が大きいから」(41.8%)が4割を超え、「急に症状が変わったときの対応が不安だから」(29.7%)、「介護してくれる人がいないから」(24.3%)、「療養できる部屋やトイレなど住環境が整っていないから」(23.4%)が2割台で続いている。

—「家族に負担をかけるから」は、男性の40代、女性の20代から40代で9割台半ば—

地域別でみると、「家族に負担をかけるから」は、県南(90.2%)で約9割と最も高く、それ以外の地域で8割台となっている。「経済的な負担が大きいから」は、県北(49.5%)で約5割と最も高くなっている。

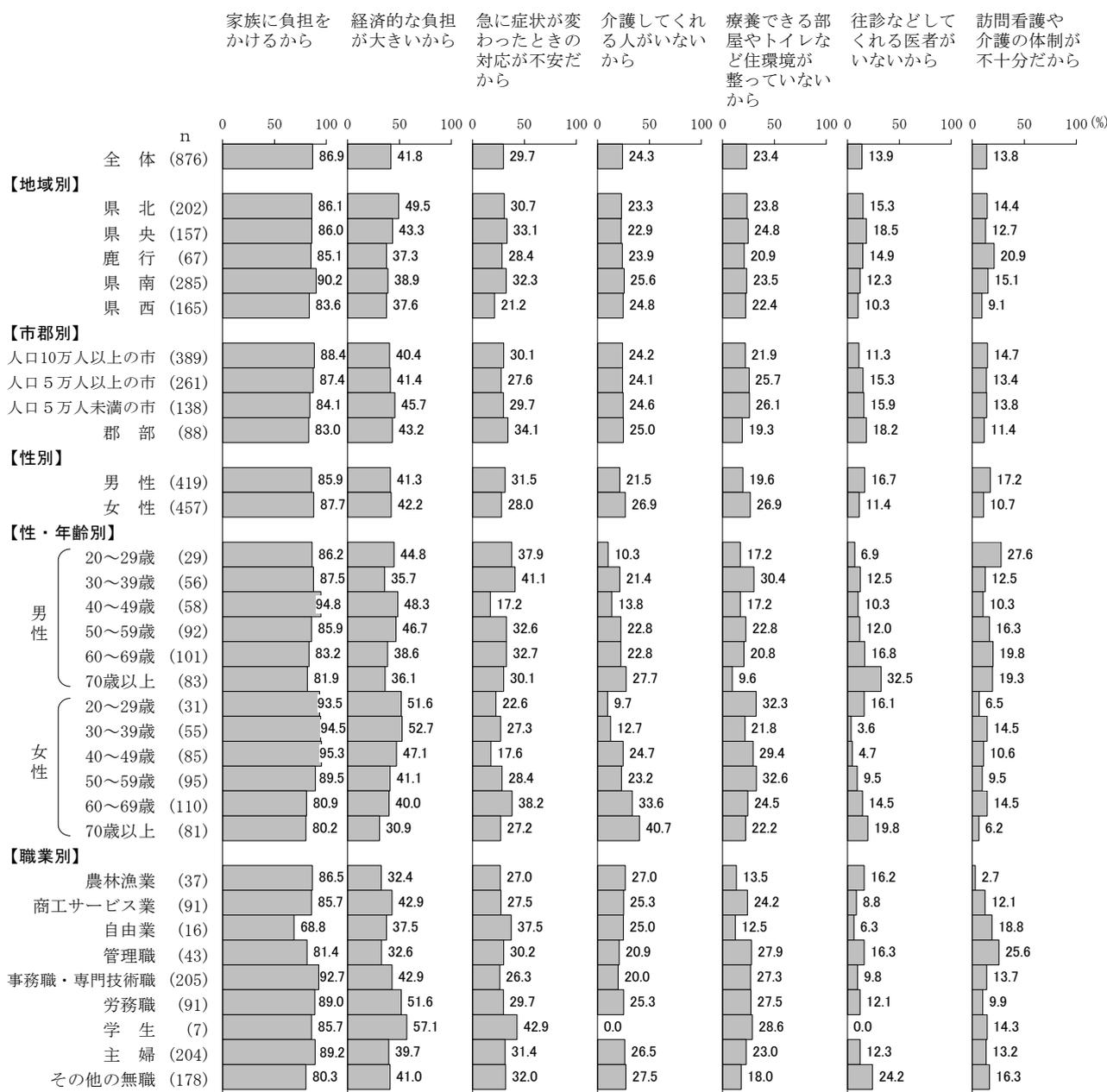
市郡別でみると、「家族に負担をかけるから」はすべての層で8割台、「経済的な負担が大きいから」はすべての層で4割台となっている。

性別でみると、「療養できる部屋やトイレなど住環境が整っていないから」は、女性(26.9%)が男性(19.6%)よりも約7ポイント、「介護してくれる人がいないから」は、女性(26.9%)が男性(21.5%)よりも約5ポイント高くなっている。一方、「訪問看護や介護の体制が不十分だから」は、男性(17.2%)が女性(10.7%)よりも約7ポイント高くなっている。また、「往診などしてくれる医者がないから」は、男性(16.7%)が女性(11.4%)よりも約5ポイント、「急に症状が変わったときの対応が不安だから」は、男性(31.5%)が女性(28.0%)約4ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「家族に負担をかけるから」は、男性の40代(94.8%),女性の20代(93.5%),30代(94.5%),40代(95.3%)で9割台半ばと高くなっている。「経済的な負担が大きいから」は、女性の20代(51.6%)と30代(52.7%)で5割を超えている。また、「急に症状が変わったときの対応が不安だから」は男性の30代(41.1%)で4割を超え、「介護してくれる人がいないから」は女性の70歳以上(40.7%)で約4割と、それぞれ最も高くなっている。

職業別でみると、「家族に負担をかけるから」は、事務職・専門技術職(92.7%)で9割を超えて最も高く、労務職(89.0%)と主婦(89.2%)で約9割となっている。「経済的な負担が大きいから」は、労務職(51.6%)で5割を超えて最も高くなっている。

図区 21-1-1 在宅医療が難しい理由や希望しない理由  
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 男性20~29歳, 自由業, 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。